

スキルアップを目指す人、バイクの楽しみを広げた人にとって気になる存在がライスク。では、豊富に存在するなかから自分に見合うのはどれか……。そんなあなたのために、全国津々浦々のスクールを体験レポートする。



report ● 谷内瑛一 photo ● 沢田和久

#6 スズキ北川ライディングスクールin竜洋

目標は「危険回避能力」の向上

北川圭一ライディングスクールは、静岡県磐田市のスズキ・二輪技術センターにある竜洋テストコースで開催されている。ここは数々のスズキ車の開発において重要な役割を果たしている地であり、そんな場所を丸一日走れるなんて、それだけでもスズキファンには魅力的だろうが、それをも上回る魅力といえば、やはりあの世界耐久王者の北川圭一氏に直接指導してもらえることだ。

北川代表は冒頭の挨拶でこんな話をしてくれた。このライディングスクールでは、バイクに乗ったときの走る・曲がる・止まるの3つの動作をしっかりできるようにすることをメインのテーマとしています。私がレースに参戦していたとき、一番難しいと感じたのはバイクの向きを変えることでした。この向きを変えるのに大切なことは、じつは先ほど述べたこの3つの動作です。本日、皆さんには今までの自分よりさらにうまくなって帰っていただきますので、どうぞよろしくお願いします。この言葉で多くの参加者が気持ちを引き締めたことだろう。

1日のカリキュラムをここで大まかに説明すると、午前中と午後の前半のカリキュラムは、教習所コース内の低速域



講師

北川圭一

●18歳でレースデビュー後、全日本選手権で活躍。各クラスで年間チャンピオンを獲得し、04年よりロードレース世界耐久選手権にチャレンジ。2年連続で世界耐久選手権のチャンピオン獲得など、輝かしい成績を残して06年に引退した。07年よりスズキレーシングアドバイザーとして活躍し、09年よりスズキ北川ライディングスクールを主宰する

DATA

開催日 ● 毎年4回開催
会場 ● スズキ竜洋コース (静岡県磐田市駒場4935)
開催時間 ● 9:00 ~ 16:30 (受付8:30 ~)
参加費 ● 1万8500円 (レンタル車両費は4300円~)
※ツナギレンタルあり (無料・数量限定)
〒スズキ北川ライディングスクール事務局
☎090-3928-6816 <http://www.k1-kitagawa.com/>

におけるメニューがおもとなる。そして午後の後半に行なわれるハイウェイコースカリキュラムでは、半分に区切られた竜洋テストコースを実際に走行するだけでなく、高速域でのバイクコントロールを体験することができる。

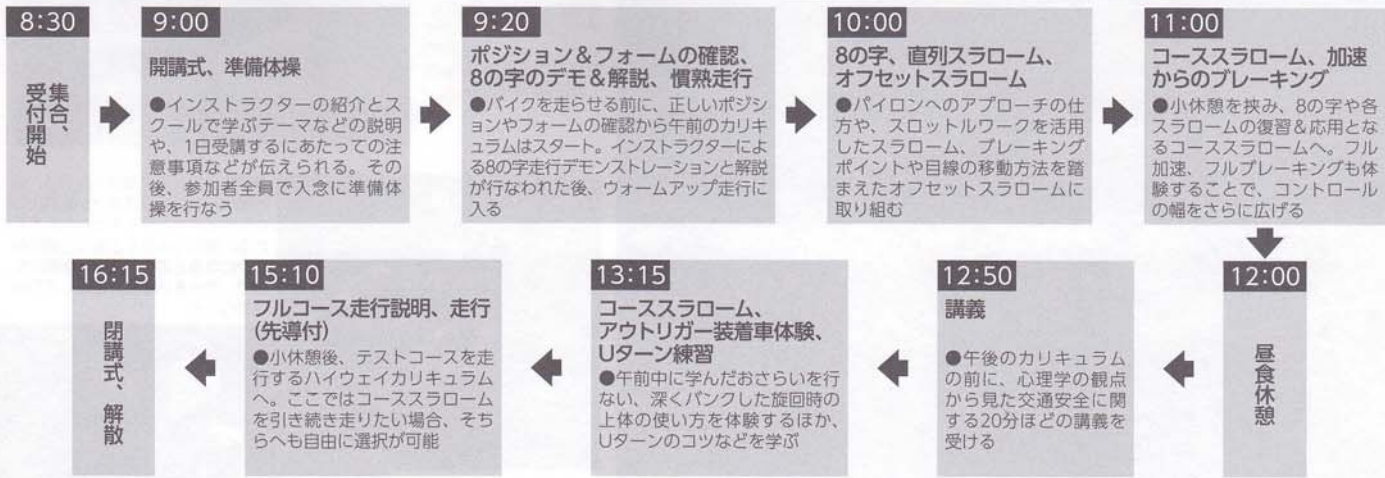
今回すべてのカリキュラムを通して実感したのが、ライディングスクールの一番のねらいである走る・曲がる・止まるという基本は、コーススラロームなどの低速域から最後に体験した高速走行時まで幅広い場面で活用できるということだ。そう感じたのも、まず始めは安全な低速域で基本をしっかり練習してから、それらを踏まえた走り方を記憶が新しいうちにコーススラロームを通して復習しながら習得することができるという、カリキュラムの効率のよさがあったからこそ。

「基本はもう完璧」なんてレベルにはほど遠いが、もつと自分のスキルを向上させたい！という思いが受講したことで知らず知らずのうちに沸々と湧き起こってきた。

インストラクターの中井直道さんの言葉にも意欲を刺激された。「自分はバイクに乗るのがうまいと思っている人でも、本当は意外とできていないなんていう場合が多く見られます。でも、それに気づき、そしてクリアできるようにすれば、街中を走る際やツーリング時の安全性につながるすることができます。皆さんには、教習所を卒業した後にも一度だけでもいいので、ライディングスクールというもので来ていただきたいですね」

さて次回の北川圭一ライディングスクールの開催日は、10月13日(月・祝)を予定している。この日経験した感覚を忘れてしまわないように、また再びこの竜洋を訪れようと心に決め、スケジュール帳に赤マルを書き込んでからコースを後にしたのだ。

LESSON SCHEDULE



●開講式では北川代表の挨拶から始まり、各インストラクターの紹介が行なわれる。8耐経験者や全日本参戦中ライダー、テストライダーを務めている方など、豪華講師陣が一同に会する



●カリキュラムスタート前に参加者全員で集合写真と準備体操。しっかりストレッチをすることで、カラダのウォームアップも入念に行なう



●走り出す前に、いまいち正しいポジションやフォームの確認から。ニーグリップがなぜ重要なのか、カカトを使ったバイクのホールド方法など、スクール中にも常に意識できるようなわかりやすい説明が印象的だった



●現在、全日本ST600クラスに参戦中の津田一磨インストラクターによる、8の字のデモ走行。ここではパイロンを旋回するラインの取り方やブレーキをかけるタイミング、目線の持って行きかたや向ける方向など、スクールを1日受けていくなかでとても重要なポイントを教わった



●今回は参加台数が多かったため、2グループに分かれての進行となった。まずは直列スラロームから。デモ走行付きで解説されたスロットルコントロールによる車体の倒し込みや引き起こしを意識しながら、目の前のパイロンをひとつずつクリアしていく



●なかなかうまくいかないときは、近くにいるインストラクターに思い切って質問してみるのが上達への近道。タイミングがよければ、北川さんから直接レクチャーを受けられることも



●続いては加速からのブレーキング。写真はインストラクターによるデモの様子。目印となるパイロンが置かれた区間を、0km/hからフル加速してパイロン通過後フルブレーキングで停止するこのメニュー。普段は前後のABSが介入するほどのブレーキングなど減速にできないだけに、とても貴重な経験となった。電子制御の恩恵を受けながらも、フル制動の感覚を知ることが、公道での安全面に大きく寄与すると実感できた



●8の字ではパイロンへのアプローチ方法やブレーキングのタイミングが学べる。走っているとき横から拡声器で随時アドバイスもらえるので、自分なりにすぐさま修正や試行することができる。これはありがたい



●そしてよいよコーススラロームへ。コース内を走ることによって、(直列・オフセット)スラローム、8の字、加速からのブレーキングなどの復習が自然とできるのがポイント。コースは道順を覚えるまでインストラクターが先導してくれるので、スクール初参加の方でも安心である

●昼食後は大阪国際大学の准教授であり交通心理学者としても活躍している山口直範インストラクターによって、心理学の観点から交通安全に着目した講義が行なわれた



●午後のコーススラロームでは、走行時にインストラクターが後ろについてライディングをチェックしてくれる。腕の力を抜くともっと旋回がラクになるとのアドバイスを受けたので、それを次なる課題にして午後は走行した



●当日は天候に恵まれ、革ツナギだと汗が止まらないほどの暑さだった。スクールでは冷たいスポーツドリンクや水が大量に用意されていたので、休憩時には各自水分補給を欠かさず熱中症対策を行っていた



●午後のカリキュラムの最後には、スクールの名物ともいえる(?)アウトリガー装着車(先端にタイヤが付いている)を体験。経験者からコツを聞いてみると「躊躇しないように」とのこと、思い切って倒しこんでみたらなんと先端のタイヤが着地。この補助装置を使って旋回することで、高速域での上半身の使い方を体験できるという



●最後は竜洋コースを走行できる、ハイウェイカリキュラムが待っている。午前・午後と低速域でしっかり基本を学んでからの高速域なので、速度レンジの変化に対応できれば、落ち着いてのびのびとライディングすることが可能だろう。カリキュラムで開放されたのはコース全体の東側半分のみだが、走り終えたあとの参加者たちの表情はどの方も充実した様子だった

今後の開催スケジュール

第2回 10月13日(月・祝)

第3回 11月23日(日)

第4回 2015年3月22日(日)

※場所はいずれも竜洋テストコース。
詳細は公式HPを要チェック

INTERVIEW



●奈良から参加のアレキサンダーさんは今回が初。「カリキュラムの内容がすべてよく、質の高いパッケージングのスクールでした。おもてなしも十分ですし、速くからでも参加する価値がありますね!」と大満足のようだ



●普段は89年式のNSR250に乗っている下園弘さんは、今回で3回目の参加。「レンタル車両が4ストなのでまず速いに慣れるのが大変でした。でも課題だった肩の力を抜いたライディングができるようになりましたし、スクール内では反復練習ができるのがいいと思います」



●愛知県から初参加の菅原洋一さん。「竜洋の広大な施設を活用して、ライディングに必要な技術や技能、知識を高いレベルで向上させてくれるのが魅力ですね。今回参加したことでメリハリのあるスラロームを身に付けることができました。高速コーナーも体験できてよかったです」



●横浜からお越しの木下清志さんはなんと今回で7回目の参加。「ブレーキの使い方を課題にしました。受講後は速度調整のブレーキングができるようになりました!」このスクールは受けるたびにもっと知りたくなる、もっと上手になりたくなるカリキュラムが魅力です」